

令和3年4月
一橋大学

令和3年度一橋大学一般選抜（前期日程）第二次試験

出題の意図等 【国語】

問題一

現代文の読解力を試す問題である。「文化」が、文明の担い手である西洋が非西洋の他者の営為をみるときに使われた概念であると同時に、西洋内でも理解に差があること、そしてその理解の差が他者の扱い方にも影響を及ぼしていることを論じた文章である。

問い一 内容を理解した上で語彙を的確に選択し、かつ漢字を正確に書く能力をみる。正解は、A「発祥」、B「往還」、C「渉猟」、D「喪失」、E「緻密」。

問い二 この文章の鍵となる「西洋人類学」の視点を適切に把握しているかを問う。

問い三 人類学者の「文明」「文化」理解が、先住民の生活にありようにまで関わったことの「重さ」を適切に表現できるかを問う。

問い四 ヨーロッパ内でも「文化」概念の理解に差があり、英仏に対抗する形でドイツの理解があることが理解できているかを問う。

問題二

いわゆる近代文語文は、近代の日本社会に深く関係しており、当時の知識人が新しい課題にどのように取り組んだかを知る上で重要である。そうした文章の読解力を試す問題である。他者の悲哀に同情することが限定的な自己を普遍的な自己へと解放するという、人間の本来的願望の成就につながっていると主張した文章である。

問い一 語句や文法を理解できているかを問う。解答例はア「得るからである」、イ「ないはずがない」、ウ「言ってよいだろう」。

問い二 内容に即して文意を読み取れるかを問う。筆者が人間には嫉妬心という性情があり、したがって他人の喜びを自己の喜びとするのが難しいとしていることをふまえ、規定の字数で的確にまとめる必要がある。

問い三 文章の主旨を理解できているかを問う。筆者が上記のように主張していることを考慮に入れ、規定の字数で的確にまとめる必要がある。

問題三

文章全体の論理を正確に読み取る読解力と、それを200字で要約する文章表現力とを問うことを意図している。素材となる文章は、アイデンティティと言葉づかいの間にある密接な関係について、話し手が自らのアイデンティティに基づいた言葉づかいをするととらえるのではなく、むしろその逆に、特定の言葉づかいによって話し手のアイデンティティが構築されるという考え方を提唱する。さらに、この関係が翻訳の現場にも当てはまることが述べられる。この文章の内容を200字の解答制限のなかで要約するには、ただ単に論点を列挙するだけでは不十分であり、それらを元の文章の論理構造に沿って再構成したうえで、新たな文章として表現する必要がある。